

白雪姫

今は昔、はづかしき人の知る国に、
 いとめでたけれど心醜き妃あり。
 あやしき鏡を持ち、
 つれづれなるままに
 よろづのことをその鏡に問ひけり。



「鏡よ鏡、
 誰か世に
 きよらなる」
 とて、
 「君ぞ
 きよらなる」と
 答ふるを待つ。されど鏡は、
 「君が姫君、白雪姫ぞきよらなる。」

*誰……古文での読みは「たれ」

【係り結び】

●係り結びと活用形
 ぞ・なむ・や・か↓連体形
 こぞ↓已然形
 君 きよらなり(終止形)
 ↓君ぞきよらなる(連体形)

●意味は？
 ぞ・なむ・こそ↓強調
 や・か↓疑問
 ……ざつくりと、

「ぞ・なむ・こそ」は「ぞ」で代表、

「や・か」は

「か」で代表して、後ろに回したら

だいたい意味が取れる

【例】

君ぞきよらなる

↓君きよらなるぞ

(あなたが美しいぞ)

誰かきよらなる

↓誰きよらなるか

(誰が美しいか)

【古文の「が」】

……「の」にあたる意味の場合も多い。

「が」のままでは

意味がとりにくかったら

「の」で訳してみよう。

(現代でも、「自由が丘」

↓「自由の丘」)

【例】

君が姫君? ↓「君の姫君」



単語	ここでの意味	解説
1. はづかし	立派な	現代の「恥ずかしい」と一緒だが、立派なことの表現に使われる場合あり。 「こちらが恥ずかしくなるほど、相手が立派」ということ。「恥ずかしい人」…悪口じゃなくて、ほめ言葉、相手が立派過ぎて、こっちが「恥ずかしく」なっちゃうような人。
2. 知る	治める	今と同じ意味に加え、「治める」という意味あり。 「知事」の「知」だと思えばいい。
3. いと	とても	今より意味が広い。 今の「おめでたい」のは、素晴らしいことの一部。 「愛(め)でる」とつながっている。いい感じ。 ここではお妃さまへのほめことば。素晴らしいとか美人とか。
4. めでたし	美しい	今より意味が広い。怪しい、不思議 さらに「粗末」「身分が低い」という意味も ↓古文の「あやし」は今の「あやしい」「いやしい」をまとめたような意味だと思っておくといい。
5. あやし	不思議	することがなくて退屈な様子。
6. つれづれなり	退屈	漢字では「万」。「八百万(やおよろず)の神」の「万」。実際の数としての「万」というより「たくさん」 「すべて」だと思っている方がいい。
7. よろづ	すべて	「清らかな」の「きよらか」。「つつし」「をか」など、美しい・いい感じのほめ言葉がいろいろあるが「きよらか」が最高の美しさだと思ってるといい。
8. きよらなり	美しい	指し語。「そあや」の「そ」。そう。「あり」がついて「そ・ある」(そなたを心づかある) ↓「あやしい」などの形も。ここでは「されど」「ただ」みたいな感じ。 分解すると「さ・あれ・と」「そ・う・ある・けれど」。このあたりの形に慣れよう。
9. さ、しか	そう	



10 にほひ、似るものなくめでたし

と申す。この妃、白雪姫の母君

11 12 隠れ給ひてのちの継母なり。

妃、鏡のかく申すを聞きて

13 「かかるやうやはある。いと

14 まさなし」といみじく腹立ちて、

* あやしき山がつして白雪姫を

殺さむと思し召す。山がつ、

17 姫君の才ありて

18 あはれになつかしきに、



【反語】

「〜やは」「〜かは」のように、係助詞「や」「か」に

「は」がつくと反語。反語って？

……キツイ疑問によって、そうでないことを強調。そんな人いる？(普通の疑問) ↓そんな人いるか!?

(いないだろ!?)
これが反語。

【例】
かかるやう(やう↓様。様子、有様・こと)やはあるか!?

↓こんなことがあるか!?
(あるはずない!)



*あやしき……ここでの「あやし」は「身分が低い」(前ページ「5. あやし」参照)

*山がつ……獵師や木こりなど、山に住む身分の低いもの。
「徒然草」とかにも出てくる語。

単語

ここでの意味

解説

10. にほひ

美しい

現代の「にほひ」は鼻で感ずるが、古文では見た目の美しさ。見た目の雰囲気であることが多い。訳しにくいので雰囲気を受け止めたほうがいい。「見た感じ」

11. 隠る

亡くなる

基本的に現代の「隠れる」と「緒だが、死ぬことの表現に使われる場合あり。現代で死ぬことを「なくなる」と表現するのと同じようなもの。↓P16コラム「死ぬことの表現」参照

12. 給ふ(尊)

くなさる
お〜になる

尊敬語 もとは「くださる」(「給料」などの「給」)

13. かく
かかる
かかり

こう

「かかる」「かく・ある」「こう・ある」。
だいたい「こんな」「こうだ」「みたいな感じで」「こう」だと思っていれば大丈夫。

14. まさなし

正しくない

「正」+「無し」。
正しい状態ではない↓よくない。都合が悪い。

15. いみじ

ヤバイ

良くも悪くもスゴイこと。すごい。

16. おぼしめす(尊)

お考えになる

尊敬語 「神の思し召し」などの言い方に残っている。

17. 才

学識

よく勉強してる感じ。読みは「さい」。

18. あはれなり

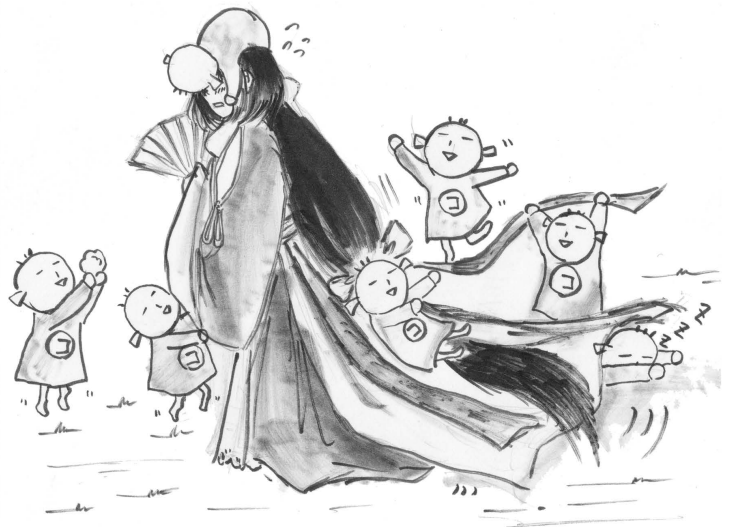
素晴らしい

趣深い。感動してればすべて「あはれ」「あわれ(哀れ)」「あっぱれ」に分かれたと思えばいい。

19. なつかし

心惹かれる、
親しみを
感じる

「懐か」「懐かしい」「わびしい」「わすらわしい」と同様 「大が人になつく」の「なつく」↓「なつかし」になつたくなるような感じ↓「惹かれる、親しみを感ずる」などの訳。



20 かなしくて姫君をば

森の中に隠しつつ、妃をあざむきて

* 「かれ、殺しつ」と申す。

21 かくて姫君、内裏よりまかる。

22 おもしろき森にて姫君、

23 をかしき七人の小人と住みけり。

24 小人たち、らうたき姫君に

25 こよなくかしづく。

*かれ…現代では「彼」は男性に限るが、古文では男女問わない。「あれ」に近く、モノも指せる。



単語	ここでの意味	解説
20. かなし	いとおしい	現代同様「悲しい」で意味が取れる場合も多い。ただし、今より意味が広く、「かわいしい」「いとおしい」などの意味も。「かわいそう」と「かわいしい」がつながるように、同情と愛情はつながっちゃう。ここでは「白雪姫が気の毒で、いとおしくなるっちゃって」という感じ。
21. まかる 謙	(偉い人のもとから) 離れる	「退出申し上げる」 反対に、偉い人のもとへ行くのは「まっつ」
22. おもしろし	趣深い	笑えるような面白さに限らない。 ↓わけわからなくても「趣深い」と訳させられたりする。いい感じ、趣深い、興味深い。 「おもしろき森」＝「いい感じの、雲団気のいい森」
23. をかし	かわいらしい	これも今みたいに笑えるようなおかしさに限らない。 ほめ言葉一般、いい感じ、美しい、カワイイ。 ここでは「かわいらしい小じん」ぐらいだと思っていればいい。
24. らうたし	かわいらしい	読みは「ロウタン」 守ってくださいオーラ全開なイメージ。
25. こよなし	この上ない	「こよなく愛する」の「こよなく」
26. かしづく	世話する 大切に扱う	

日ごろ言ふやう、²⁷
 「わがつかうまつる白雪姫、²⁸
 われら離るる間、²⁹
 さらに人な入れ給ひそ。³⁰
 妃に知られもぞする」とて
 なき間いと心もとながりあへり。³¹
 そのち、妃
 「誰か世にきよらなる」
 と鏡に問へば、
 「白雪姫なり。
 七人の小人具してあり」と申す。³²
 かかるに妃、
 なかなか腹立ちおぼえて³³
 「あなくちをし。³⁵
 おろかなるさかしき山がつ、³⁷
 心違へけり。かかれば」³⁹



【もぞ・もこそ】
 係助詞「ぞ」「こそ」の上に
 「も」がついた、
 もぞ／もこそ
 ……したら困る
 【例】
 知られもぞする
 ↓知られたりしたら困る



【なくそ】
 なくそ…禁止。するな。
 「そ」を消して、
 「な」を後ろに回して解釈。
 【例】
 「な入れ給ひそ」
 ↓「入れ給ふ」な

39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	単語	ここでの意味	解説
心違ふ	さかし	おろかなり	くちをし	あな	おぼゆ (覚える)	なかなか	具す	心もとなし	さらに	離る	つかうまつる (謙)	日ごろ	単語	ここでの意味	解説
裏切る	賢い	いい加減だ	残念	ああ	感じる	かえって	ひきつれる 合わせる	気がかりだ	(打消の強調) 全く	離れる 別れる	お仕えする	日頃			現代の「日ごろ」と同じように、古文では「日ごろ」以外に「日ごと」「数カ月」「年ごと」「何年か」というような語もある。「日ごろ」については、「日ごろ」のイメージをもって「日」の代わりに「年る」などもある。と考えよう。今の「年頃の娘さん」のような使い方はしないので、現代の「年頃」は忘れよう。
「心を違つようにする」↓裏切る。気を変える。	「小賢しい」「賢い」	「おろそか」の「そ」がないもの、と思えばいい。ここでは、「あのいいかげんなやつめ」って感じ。	感動詞。		「見る」↓「見える」、「聞く」↓「聞こえる」のよみ、「思つ」↓「おぼえる」現代の「怒りを覚える」の「覚える」	今の「なかなかできない」などの「なかなか」とは違ふ。	みそ汁の「具(汁と一緒になっているもの)のイメージ。		打消しの強調に使われる。「てんなつもりはさらさらない」の「さら」だと思えばいい。現代の「それに加えて」という意味の「更に」はあまり出ないので、こっちは忘れたい方も。	「わかる」の「かれる」だと思っていればいい	仕え・まつる。				



とすごき声にて⁴⁰
 かたはらい⁴¹たきほどに⁴²ののしる。
 手づ⁴³から姫君を殺さむと思し召して、
 おうな⁴⁴に変化し、
 あまた⁴⁵のいみじき毒林檎持て、
 白雪姫⁴⁶がもとへおはす。
 姫君、おうな⁴⁷の妃なるをえ知らず。
 おうな、窓叩きてのたまふやう、
 「きよらなる姫君、
 くだものきこしめさむや」⁴⁸
⁴⁹

【えいず】
 えいず↓できない。
 【例】
 え知らず
 ↓知ることができない。
 わからない。



49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	単語	ここでの意味	解説
きこしめす ^④	くだもの	のたまふ ^⑤	おはす ^⑥	あまた	おうな おみな	しづから	ののしる	かたはらい たし	すごし		召し上がる	①寒いところのもの ↓の音脈が寒くなるようになっています。 ③「まじない」を見ても「まじ」って言うような、心が寒くなる感↓「興さぬ」。
	お菓子	おっしゃる	いらっしゃる	たくさん	おばあさん	自分のしで	大声を出すこと	きまり悪い	ぞっとする			
	古文では菓物を言て「お菓子」という位置づけ。		昔「水戸語」では「ぢぢらたおわす」(「いらっしゃる」方を言たてて「ぢぢら」)って言って口癖を出してました。		おじいさんは「おみな」 ^⑦	現代語「しづから」⇒身づから⇒自分の身で、ここでは「手づから」⇒自分の手で。	とにかく大声で騒いでいれば「ののしる」だと思えばいい。↓悪い意味に限らず、「世間で評判になっている」という表現に使われることあり。世間の人々がうわさして騒ぎになっている、というプラスイメージにも。	「傍(かたわら)にいて、うわ、イタイなあ」とって思う状態。本人は気づいてないかもしれないけど、見ているこっちがイタイ気分。				



姫君、

「あな、うまげなるくだものかな」

50 として召すに、やがて倒れ臥し

52 いたづらになりけり。

53 白雪姫のはかなくなりぬるを



単語

ここでの
意味

解説

50 召す (尊)

召し上がる

古文の「召す」は尊敬語で「お呼びになる」という広い意味がもつ。人でも食べ物を着物でも、自分のものに寄せる。着物を「召せ」は着ること、食べ物を「召す」は食べること。

51 やがて

すぐに
そのまま

現代より早い。

52 いたづら

無駄なこと

子供の「いたづら」は無駄なこと。また「現代で「死ぬ」を避けて「なくなる」と言いつまうに、古文でも「死ぬ」ことを別の表現をするところがあり、「いたづらになる」でも、現代語の「なくなる」(無くなる)と同じように死ぬことの意味になる。

53 はかなくなりぬる

左のコラム参照

☆コラム

④「死ぬ」の表現

現代でも直接「死ぬ」というのがきついで「なくなる」(無くなる)という表現に変えたりする。古文でも、直接「死ぬ」と言つのを避け、いろいろな言い方をする。

・隠る

・はかなくなる

・言ふかひなくなる

・あさましくなる

・いたづらになる

など。



知りて小人も、

「など、かくなりぬる」と、

われかのけしきにて、

すずろに悲し。

「いかがはせむ」と

思ひ惑へどかひなし。

これよりのちも、

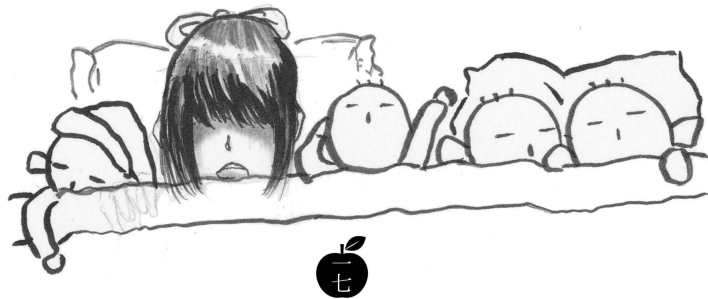
うつくしき姫君の姿だに

見まほしと、

こころうきを念じて

硝子の棺に入れ明け暮れ眺む。

いとど悲しさまざりけり。



【助動詞まほし】

願望。〜したい。
「欲し」とつながっている
と思えばいい。

【例】
「見まほし」
↓見る、ということがほしい
↓「見たい」

単語	ここでの意味	解説
54. など	なぜ	今と同じ「等」の場合とは別々、「何故(なぜ)」の場合とあり。「飽」と「雨」のような同音異義語は「なぜ」の方。
55. われかのけしき	正気を失った様子	「我が？」の気色、自分が誰かもわかんないような状態↓テンパっている状態
56. すずろなり	むやみやたら	わけがわからない様子。
57. いか	どう	いかが↓どう、いかが↓どうしてなど。 (「きげんいかが」の「いか」だと思っていればわかる)
58. かひなし	どうしようもない、意味がない	甲斐がない↓どうしようもない。意味がない。 美人系・カワイイ系で分けるとする、カワイイ系であることが多い。
59. うつくし	かわいい	〜さ。『微動だにしない』↓わずかな動きさえしない
60. だに	せめて〜だけでも	「心」+「憂」なので、意味そのまま
61. こころうし	つらい	現代同様、念仏などを唱える、という意味もあるが、「我慢する」「こらえる」という意味もあり。
62. 念ず	我慢する	現代の「眺める」と同じだが、「物思いにふける」という表現に使われる場合が多い。物思いをしているときはほんやり外の景色を、ながめて、いるイメージ。
63. 眺む	物思いにふける	
64. いとど	ますます いっそう	「いとど」「いとど」の連続↓「いっそう」
65. まらる	増える つものる	「刺す」「刺さる」ができるように、増す「から増す」。「現代の「勝」(かち)る」ところの「増す」(あふ)る(あふ)る)の一種。

散歩中

あちらから人の泣く声が……



オオイオイ
オオイオイ
オオイ

ここに若宮あり。

森に行きけるに、棺見つけたり。

66 ゆかしくて

棺のもとに

67 るて、

「あはれ、

世に

きよらなる

姫君かな」

「いつぞやの姫の死に顔に心を動かされるの図」



単語

ここでの意味

解説

66 ゆかし

心ひかれる気になる

知りたい気持。

67 る

座る

古文では「座る」止まっている状態。「いても立ってもいられない」からわかるように「も」と「は」は「立つ」の反対。

「ここ」まで見てきた古文単語、「現代では使わない単語」だけが古文単語ではありません。中には、形は今とあまり変わらなくても、意味が違ったりから気をつけなければならぬものも。「ここ」で、古文単語と向き合うときの心構えを紹介します。

★心構えその①

形は現代語と一緒にでも、今とは違う意味だと思っただけでいいものも。

↓今の感覚で読むと勘違いするかもしれないので、気をつけておく必要がある単語あり。今でも見る語だからといって安心しないこと。たとえば「ほむ」、今では「におい」と言えば鼻で感じるものですが、古くは目で感じる美しさ。このように意味のズレがあるものがあるので、まずは今と意味が違うものに要注意。19、30、51、67など。

★心構えその②

古文単語には、基本的に今と変わらないけど、特別な意味に使われる場合がある。

1. 「はづかし」など、今も使う「恥ずかしい」に加え、「恥ずかしくなるくらい」相手が立派」という意味も。
↓「こんな特別な意味がある」というのを覚えるのがポイント！ 1、2、5、11、20など

↓次ページに続く……

とて覚えぬ姫君につと口づくれば、⁶⁸

姫君の喉より悪しきくだもの

飛び出でたり。

姫君おどろきて、⁶⁹

そののち宮とあひ、⁷⁰幸ひ見はてたり。



単語	ここでの意味	解説
68 つと	ぴったり	「みやげ」の場合、「ぴったり」という場合（「つつ」というのがぴったりくつく感じの音で「ぶわっと」「ぐわっと」のような感じで「つつ」とあり。
69 おどろく	目が覚める	今より意味が広く、①目が覚めるの気づくなど。何かに気づいてびっくりしたり、寝ていたのが起きたりする。元の状態より目が開く。もとより目が開いたら「おどろく」だと思えない。
70 あふ	結婚する	古文では、ただ「あふ」だけでなく「結婚する」という意味を持つ場合あり。

★心構えその③

古文単語では、「意味」を暗記するのがつらかったら、今の意味をふんわりイメージして広げてみよう。15・「いみじ」の意味を①ひどい、あんまりだ②すばらしい……などといくつも覚えるのはツライ。「今の「ヤバイ」みたいな感じ」とふんわりとらえていくと、かえって意味がとりやすくなることも多い。「訳を多数暗記」ではなく、「こんな感じのコトバ」っていつふんわり感も、読解にはかえって大切。4・「めでたし」、18・「あはれなり」など、訳の暗記よりはふんわりイメージのほうがか古文は読みやすい。

↓4、8、15、18、22、23、40、59など

心構え②とも関連して、②の「特別な意味」も、ふんわりイメージから、意味のつながりを想像することもできる。

こんな感じで、「意味の暗記」でなく単語と向き合い、考えることができれば、この先、未知の単語に出会っても、その場で考えることができるかも……

